

## 日韓両言語における漢語動詞の対応をめぐって (2)<sup>(1)</sup>

— 日韓対訳小説を一例として —

尹 亭 仁

### 1. はじめに

日韓両言語における漢語動詞の対応の様相をより具体的に捉えるべく、尹亭仁（2016）では韓日対訳小説の『한낮의 시선』（2009）／『真昼の視線』（2013）に見られる漢語動詞の用例を中心に取り上げた。

本稿では、韓国語の漢語動詞の用法を中心に捉えた尹亭仁（2016）での考察を参考にしつつ、日韓対訳小説の『キッチン』（1988）／『키친』（1999）に見られる漢語動詞の用法を、日本語を中心に取り上げることにしたい。そうすることによって、日韓両言語における漢語動詞の対応の様相が相互の観点から明らかになると思われる。

### 2. 先行研究の考察と本稿の目的

尹亭仁・車香春（2013）では、使用語彙を中心に編まれた『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』（2009）に見出し語として載っている2字漢語動詞約5,330語を分析し、7割強が「正の転移」に、3割弱が「負の転移」に繋がるという結果を提示している。母語が目標言語の習得を促進する正の転移（positive transfer）の観点からすると、この分析の結果は、漢語動詞の用法が両言語の学習者の理解や上達を促す大きな要素であることの根拠になる。3割弱の「負の転移」は日韓両言語の漢語動詞の全体の語数からは少ないが、様子は非常に複雑である。母語が目標言語の習得に妨げになる負の転移（negative transfer）の観点からすると、この負の転移の様相は日韓両言語の言語教育において妨げになる要素になる。

尹亭仁（2016）では韓日対訳小説の『한낮의 시선』（2009）／『真昼の視線』（2013）に見られる漢語動詞の使用状況および対応関係に注目し、韓国語の用例を中心にそれを取り上げた。考察から語数の最も多い2字漢語動詞の場合、正の転移の比率は6割弱（57.08%）であるとの結果を提示している。

本稿では、尹・車（2013）で取り上げた辞書の見出し語の語彙的対応には見られない、文脈のある小説の場面ではどういう違いが見られるのか、また最も語数の多い2字漢語動詞の場合、韓日辞典では7対3、韓日対訳小説では6対4というふうに提示された正の転移と負の転移の割合がどう推移するのか、などを用例の分析を通して具体的に見ていきたい。

本稿では、日韓対訳小説の『キッチン』（1988）／『키친』（1999）の語彙調査から得られたデータを拠り所にして両言語の漢語動詞の用例の対応関係を取り上げていく。それによって、日本語の漢語動詞

(1) 本研究は、JSPS 科研費 15K02703 の助成を受けたものである。

に韓国語の漢語動詞が対応できない語彙のおよび統語的側面、すなわち「負の転移」の様相がより明らかになると思われる。

### 3. 日韓対訳小説に見られる漢語動詞の分析

#### 3.1 分析のテキスト

本稿で分析のテキストとして選んだ作品は、日韓対訳小説の『キッチン』（吉本ばなな、pp. 3-226, 1988）である。ページ数では、尹亭仁（2016）が分析のテキストとして取り上げた韓日対訳小説の『한낮의 시선』（2009）より多いが、用いられた漢語動詞は1/4ほど（1,104語対245語）である。以下では、『キッチン』（1988）／『키친』（1999）の漢語動詞の用例を音節ごとに分類したデータを中心に両言語の漢語動詞の対応の様子、「正の転移」および「負の転移」の分析を試みる。

#### 3.2 漢語動詞の語彙数

『キッチン』（1988）に用いられた日本語の漢語動詞は245語である（〈表1〉参照）。これらの訳に用いられた韓国語の漢語動詞は499語である（〈表2〉参照）。韓国語の方が2倍以上の語彙数である。尹亭仁（2016）でテキストとして取り上げた『한낮의 시선』（2009）／『真昼の視線』（2013）でも、両言語間での漢語動詞の使用は「韓国語2：日本語1」の割合を見せていた（1,104語対533語）。この割合が他のジャンル、例えばエッセイや専門書などではどのように変わるか更なる調査が必要であるが、韓日・日韓対訳小説に限って言うならば、韓国語の方が2倍以上の使用状況を呈している<sup>(2)</sup>。

まず、『キッチン』（1988）／『키친』（1999）に用いられた日本語245語と韓国語499語の漢語動詞の音節ごとの内訳とその割合を見てみよう。

---

(2) この現状とは異なる語彙調査の結果もある。韓日・日韓対訳小説ではなくそれぞれ英語の *The Old Man and the Sea* (1952) から翻訳された『老人と海』（2015）と『노인과 바다』（1994）の漢語動詞の使用状況を調べたところ、僅差ではあるが、日本語は346語、韓国語は345語という逆の結果が得られた。内訳を見てみると、1字漢語動詞は日本語70語：韓国語87語、2字漢語動詞は270語：256語、3字漢語動詞は6語：2語、4字漢語動詞は0語：0語であった。日本語の中で最も多く用いられた1字漢語動詞は「感じる」で38回、「対する」が10回、「達する」が8回である。韓国語の中で最も多く用いられた1字漢語動詞は「향하다（向かう・向ける）」で22回、「위하다（ため）」が19回、「대하다（対する・つく）」が11回である。2字漢語動詞の場合、日本語は、「固定する」が8回、「準備する」と「判断する」がそれぞれ7回ずつである。韓国語においては、「시작(始作)하다（始まる・始める）」が38回、「계속(繼續)하다（続ける）」が11回、「대답하다（答える）」と「준비하다（準備する）」がそれぞれ9回用いられている。1字・2字漢語動詞ともに日本語は和語動詞なのに、韓国語は漢語動詞である類の動詞の頻度が高いことが分かった。3字漢語動詞の場合、日本語は、「一回転する」「急降下する」「急接近する」「急旋回する」の4語（延べ語数は6語）であり、韓国語は「급강하(急降下)하다（急降下する）」と「맹활약(猛活躍)하다（大活躍する）」の2語である。アメリカの有名な童話の *The Giving Tree* (1964/1992) の翻訳の場合、韓国語の『아낌없이 주는 나무』（2000）では「대답하다（答える）」の1語のみが用いられ、日本語の『おおきな木』（2010）では1語も用いられなかった。漢語動詞を用いなくても物語が完成することに軽い驚きを覚え、日韓対訳童話の『はじめてのおつかい』（1976）と『이슬이의 첫 심부름』（1991）を調べてみた。その結果、『はじめてのおつかい』（1976）では、「約束する」（1回）と「深呼吸する」（2回）が用いられていた。『이슬이의 첫 심부름』（1991）では、「약속하다（約束する）」「조심하다（気をつける）」「시작하다（始める）」「사과하다（謝る）」がそれぞれ1回ずつ用いられていた。

小説であれ、童話であれ、日韓対訳本の場合は韓国語の方が漢語動詞を多く用いる傾向が浮き彫りになってきた。更なる調査を通してこの傾向の裏付けの提示と両言語の漢語動詞と非漢語動詞との割合や住み分け、語構成の相違などを明らかにしていく必要があると思われる。

〈表1〉『キッチン』（1988）に用いられた漢語動詞の語数および割合

音節	延べ語数	割合(%)	異なり語数	割合(%)
1音節	66	26.94	12	9.02
2音節	177	72.24	119	89.48
3音節	2	0.82	2	1.50
4音節	0	0	0	0
5音節	0	0	0	0
6音節	0	0	0	0
総語彙数	245	100	133	100

〈表2〉『キッチン』（1999）に用いられた漢語動詞の語数および割合

音節	延べ語数	割合(%)	異なり語数	割合(%)
1音節	87	17.43	19	8.12
2音節	406	81.36	209	89.32
3音節	2	0.4	2	0.85
4音節	4	0.8	4	1.71
5音節	0	0	0	0
6音節	0	0	0	0
総語彙数	499	100	234	100

〈表1〉と〈表2〉から、両言語ともに1字および2字漢語動詞が全体の9割以上を占めていることが分かる。また、韓国語は日本語より延べ語数も2倍以上であるが、異なり語数も2倍以上であることも分かった。これは、日本語の和語動詞や他の表現に韓国語は漢語動詞が対応していることになる。

〈表3〉から両言語間の漢語動詞の正の転移および負の転移とその割合を見てみよう。本稿では、両言語間で辞書の上で対応する漢語動詞は「語彙的」、さらに小説の文脈の中でも対応している漢語動詞は「意味・統語的」と分けて取り上げる。「語彙的」漢語動詞は「意味・統語的」漢語動詞の必要条件である。

〈表3〉『キッチン』（1988）に見られる漢語動詞の正の転移および負の転移の語数と割合

音節	延べ語数	正の転移				負の転移	割合(%)
		語彙的	割合(%)	意味・統語的	割合(%)		
1音節	66	8	12.12	1	1.52	58	87.88
2音節	177	166	93.78	103	57.87	74	42.13
3音節	2	2	100	0	0	2	100
4音節	0	0	0	0	0	0	0
5音節	0	0	0	0	0	0	0

6音節	0	0	0	0	0	0	0
総語彙数	245	177		104		134	100

1字漢語動詞の場合、66語のうち、58語が負の転移に繋がり、その割合は9割弱の87.88%になっている。

2字漢語動詞の場合、日韓両言語間で正の転移を示す漢語動詞は、語彙的に166語であり、割合からすると93.78%である。非常に高い割合である。しかし、小説の表現の中で実際に対応している動詞は、統語的には103語で57.87%の現状を呈している。語彙的に9割強から意味・統語的に6割弱という、大きな開きが見られた。

3字漢語動詞の場合、用いられた用例は少ないが、2つとも負の転移を呈している。

ここまで、『キッチン』（1988）／『키친』（1999）に用いられた漢語動詞245語、とりわけ正の転移を呈していた177語の対応について取り上げた。対訳小説の場合、辞書より漢語動詞の正の転移の比率が格段に下がることが確認された。

以下では、〈表1〉〈表2〉〈表3〉を参考にしながら音節ごとに日韓両言語の漢語動詞の対応の様相を見てみよう。

## 4. 日韓対訳小説に見られる「正の転移」の様相

### 4.1 1字漢語動詞の場合

『キッチン』（1988）に用いられた1字漢語動詞の内訳を見てみよう。

〈表4〉『キッチン』（1988）に用いられた1字漢語動詞の語数

一連番号	日本語	延べ語数	対応する韓国語
1	愛する	12	—
2	案ずる	1	—
3	感じる	33	—
4	屈する	1	굴(屈)하다
5	高じる	1	—
6	信じる	10	—
7	接する	1	접(接)하다
8	対する	3	대(對)하다
9	通じる	1	통(通)하다
10	動じる	1	동(動)하다
11	熱する	1	—
12	要する	1	요(要)하다
合計		66	

最も多く用いられたのは「感じる：느끼다」(33回)で、「愛する：사랑하다」(12回)と「信じる：믿다」(10回)がそれに次ぐ。これらの3つの動詞は尹亭仁(2016)にも見られたように使用頻度の高い動詞である。いずれにせよ、「愛する」「感じる」「信じる」の3つの動詞は、日本語は「漢語動詞」、韓国語は「非漢語動詞」であるため、負の転移に繋がる。

『キッチン』(1988)では、12語の1字漢語動詞が用いられていた(〈表1〉・〈表4〉参照)。語彙的に正の転移を見せていたのは(1)の6語である。

- (1) 屈する：굴(屈)하다 (1/66回)
- 接する：접(接)하다 (1/66回)
- 対する：대(對)하다 (3/66回)
- 通じる：통(通)하다 (1/66回)
- 動じる：동(動)하다 (1/66回)
- 要する：요(要)하다 (1/66回)

この正の転移を呈する6語は1字漢語動詞の66回の用法の中で8回を占め、割合からすると12.12%である。残りの6語が87.88%を占め、負の転移に繋がっていることになる。

しかし、小説の表現の中で実際に対応している動詞は(2)の1語のみである。

- (2) j. 人は状況や外からの力に屈するんじゃない, うちから負けがこんでくるん… (p. 144)
- k. 사람이란 상황이나 외부의 힘에 굴(屈)하는 것이 아니라 바로 그 자신… (p. 124)

66回の用法の中で1回のみが正の転移を示すと、正の転移の比率はさらに下がり、1.52%となる。

#### 4.2 2字漢語動詞の場合

『キッチン』(1988) / 『키친』(1999)で最も多く用いられていたのは、2字漢語動詞である。延べ語数は177語、異なり語数は119語である(〈表1〉参照)。全体の245語の漢語動詞において、72.24%を占めている。

日本語の177語に対して韓国語では406語が用いられている。2倍以上の使用である。正の転移の比率は、語彙的には93.78%、統語・意味的には57.87%である。これは、36.73%を占める65語は対応する漢語動詞があるにも拘わらず他の表現が対応していることを意味する。尹亭仁(2016)で、韓日対訳小説における2字漢語動詞の場合、提示された正の転移の比率は57.08%である。韓日・日韓対訳小説はともに6割弱である。日韓両言語の漢語動詞の場合、辞書のように語彙論レベルでの対応では「7割強」の結果が得られたが、文脈つきの統語・意味論レベルでの対応においては「6割弱」という結果が得られた。今後これの一つの目安に、さらに語彙調査を行ない、分類・分析をすすめたい。

『キッチン』(1988)の2字漢語動詞の中で、最も頻度の高い漢語動詞は「電話する」(8回)、「安心する」(7回)、「理解する」(5回)である。いずれも対応する韓国語の漢語動詞「전화(電話)하다」「안심(安心)하다」「이해(理解)하다」があるため、正の転移の比率は100%になる。対応関係を調べたところ、「安心する」は7回とも「안심(安心)하다」が対応している。しかし、「電話する」と「理解する」の場合、「전화(電話)하다」と「이해(理解)하다」が対応する場合もあるが、違う表現になっている場合もある。「電話する」は8回のうち、4回が他の表現になっている。「理解する」は5回のうち、2回が他の表現になっている。以下で「電話する」と「理解する」の使用状況を見てみよう。

- (3) a. 電話できなかった／전화를 걸 수 없었다
- b. 電話する／전화 걸
- c. 電話したら／전화를 걸었더니
- d. 電話をする／대화를 나눈다

(3abc)の場合、「電話(を)する」が「電話をかける」という、より具体的動作になっている。尹亭

仁 (2014: 22) で提案したように, 動詞によってはコロケーション情報も学習効果に繋がる。「電話する」は例として提示していないが, (4abcd) のようなものが挙げられる。これに『キッチン』(1988) から得られた (5ab) も加えられる。

- (4) a. 競売する/경매(競賣)하다 競売にかける/경매에 붙이다<sup>(3)</sup>  
 b. 激論する/격론(激論)하다 激論をたたかわせる/격론을 벌이다  
 c. 主演する/주연(主演)하다 主演を務める/주연을 맡다  
 d. 声援する/성원(聲援)하다 声援を送る/성원을 보내다  
 (5) a. 電話する/전화(電話)하다 電話をかける/전화를 걸다  
 b. 期待する/기대(期待)하다 期待を込める/기대를 갖다

(6ab) の「理解する」は「電話する」とは違う様子を呈している。(6ab) の「理解する」の意味は両方とも「気づく」の意味に訳されている。これは同じ漢語動詞であっても意味の外延に違いがあることを表す。こういうことも辞書レベルの「語彙的対応」からは捉えにくい点である。

- (6) a. 理解した/알아차렸다  
 b. 理解できてしまう/알아 버렸다

『キッチン』(1988) からは(7)のような正の転移の用法が多く見られた。

- (7) 絶望して            절망(絶望)하여  
 案内しようか        안내(案内)할까요  
 判断する            판단(判断)하는  
 紹介した            소개(紹介)하였다  
 執着して            집착(執着)하게  
 限定する            한정(限定)한다

正の転移より複雑な様相を呈する 2 字漢語動詞の負の転移については 5.2 で詳しく取り上げる。

#### 4.3 3 字漢語動詞の場合

『キッチン』(1988) に用いられた日本語の 3 字漢語動詞は(8)の 2 語のみである。

- (8) 急停車する・複雑化する

両方とも韓国語にある 3 字漢語動詞であるが, 対応する訳ではなかった。負の転移に繋がる訳については 5.3 で取り上げる。

#### 4.5 4・5・6 字漢語動詞の場合

『キッチン』(1988) では, 日本語の 4・5・6 字漢語動詞の存在は確認できなかった<sup>(4)</sup>。

ここまで, 尹亨仁 (2016) の韓日対訳小説における語彙調査の結果を参考にしつつ, 『キッチン』(1988) / 『키친』(1999) に用いられた漢語動詞 245 語と 499 語, とりわけ正の転移を見せていた 166 語の音節ごとの対応について取り上げた。対応する漢語動詞が存在するにも拘わらず, 文脈によっては他の動詞や表現を用いる動詞が延べ語数で 3 割以上にも上ることが分かった。これは語彙レベルでの対応より統語・意味レベルでの対応において正の転移の比率が 3 割以上下がることを意味する。この傾向

(3) 『東亜新国語辞典』(1989/2003) には「붙이다」になっているが, 『標準国語大辞典』(1999) には「부치다」になっている。尹亨仁 (2014) では『東亜新国語辞典』(1989/2003) に倣い, 「붙이다」にしたので, 本稿でもそれに従う。

(4) 因みに, 『デイリーコンサイス国語辞典』(2010) に載っている 4 字漢語動詞は 118 語で, 5 字漢語動詞は「無条件降伏する」の 1 語のみである。全体の約 7,240 語の漢語動詞の中で 6 字漢語動詞は見当たらなかった。

については更なる調査を通して裏付けをする必要がある。

## 5. 日韓対訳小説に見られる「負の転移」の様相

『キッチン』（1988）の韓国語対訳本である『키친』（1999）における両言語の漢語動詞の用法においては全体的に正の転移を示す用法が多かった（〈表3〉参照）。しかし、負の転移は予想より複雑な様相を呈していた。本節では、負の転移について取り上げたい。

### 5.1 1字漢語動詞の場合

『키친』（1999）で、〈表4〉に提示した12語の1字漢語動詞の中で6つの動詞が正の転移を呈している。語数の上では半分であるが、使用頻度からすると8:58になる。すなわち〈表4〉の対応しない動詞は87.88%の負の転移の様相を呈している。

尹亭仁（2016）で取り上げられたように、1字漢語動詞は負の転移の比率が高い。これは日韓両言語の相互の観点からも言えることで、両言語において1字漢語動詞の使用頻度が高くなればなるほど、全体の負の転移の比率も高くなる。(9)のように、日韓両言語において語彙的には対応しないが、使用頻度の高い「愛する」「感じる」「信じる」の用法に限ってみると、83.33%の使用状況である。テーマによっては「愛する」が用いられない場合もあるだろうが、「感じる」や「信じる」はそれと関係なく用いられている。これは尹亭仁（2016）の考察からも、『老人と海』（2015）の語彙調査からも確認できる。

(9) 愛する：사랑하다 (12/66回)

案ずる：걱정하다 (1/66回)

感じる：느끼다 (33/66回)

高じる：지나치다 (1/66回)

信じる：믿다 (10/66回)

熱する：가열 (加熱) 하다 (1/66回)

日本語の漢語動詞に関する一定の目安の数字はまだ報告されていない<sup>(5)</sup>。参考にすべく、1字漢語動詞を対象を絞り、『デイリーコンサイス国語辞典』（2010）の見出し語について語彙調査を行ったところ、見出し語として載っているのは227語であった。ちなみにLIGHTHOUSE JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY (2008)からは81語、THE GRAND CENTURY JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY (2011)からは78語の見出し語の存在が確認された。LIGHTHOUSE JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY (2008)の場合、THE GRAND CENTURY JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY (2011)より「高じる」「講じる」「扮する」「類する」の4語が多い反面、「臆する」は載っていない。「高じる」は『キッチン』にも使われている（〈表4〉参照）ことから使用語彙であると考えられる<sup>(6)</sup>。

### 5.2 2字漢語動詞の場合

日韓両言語における2字漢語動詞の負の転移については尹亭仁（2014）で取り上げられた。本稿ではそれに倣い分類・分析を行なうが、問題点も指摘したい。以下では、『キッチン』（1988）／『키친』

(5) 部分的ではなるが、張志剛（2014）および小林英樹（2004）に新聞記事を用いたデータの数値が提示されている。『デイリーコンサイス国語辞典』（2010）には約7,240語の漢語動詞が載っており、現在音節ごとの分類作業をすすめている。

(6) 『デイリーコンサイス国語辞典』（2010）より規模の大きい『大辞林』（2005）には「按ずる」「医する」「委する」「慰する」「役する」「寓する」「令する」「例する」「隸する」なども載っている。一般的に用いられる使用語彙ではないにしても、漢字から意味が読み取れる理解語彙ではあると思われる。

(1999)における74語の2字漢語動詞の対応が見せた「8つの負の転移」の様子について見てみよう。

### 5.2.1 【非対応1】

【非対応1】は、「2字漢語+する」に「他の2字漢語を含む하다」が対応する類である。『キッチン』(1988)に見られた用例を(10ab)に提示する。

- (10) a. 邪魔する: 실례(失禮)하다  
工夫する: 조리(調理)하다  
b. 相談する: 의논(議論)하다

「お邪魔しました」の場合、実際会話で耳にしたり、韓国語の授業で学習者に置き換えの練習をさせたりもする、頻度の高い表現である。「お邪魔しました」は「실례(失禮)했습니다」に訳される場合が多く、「邪魔する」になると「방해(妨害)하다」に訳される。【非対応1】は語数の上では多くないと思われるが、頻度の高い動詞が含まれているため、この類の漢語動詞の整理が急がれる。筆者は『デイリーコンサイス日韓辞典』(2009)の見出し語の分析を行っており、「正の転移」と「負の転移」の分類までは進んでいるが、8つの非対応の分類までは至っていない。

### 5.2.2 【非対応2】

【非対応2】は、(11a)のように「2字漢語+する」に「1字だけ異なる漢語を含む하다」の類である。韓国語と日本語は文構造および語構造が類似しているため、会話の際に互いにつられる場合が多い。(11a)の「苦勞する」「同棲する」は韓国語にない動詞であるため、「고생(苦生)하다」「동거(同居)하다」に訳されることが多い。(11b)は韓国の国語辞典の見出し語に載っているが、筆者の言語生活の中で使われることはほとんどない<sup>(7)</sup>。(11c)は両方とも使われるが、「산책(散策)하다」の方がより多く用いられていると思われる。

- (11) a. 苦勞する: 고생(苦生)하다  
同棲する: 동거(同居)하다  
b. 感心する: 감탄(感歎)하다  
掃除する: 청소(清掃)하다  
焼香する: 분향(焚香)하다  
c. 散歩する: 산책(散策)하다

(11abc)以外に「整形する」のような用例も見られた。これは主に「정형 수술(成形手術)하다」と訳される動詞である。日本語の「整形する」には顔のみならず、全身のリハビリまで含まれるが、韓国語の「정형(整形)하다」は後者の意味に限定される。このような意味の限定は、(10b)の「相談する」にも言えることである。

### 5.2.3 【非対応3】

【非対応3】は、韓国語からの分類によると、「音読みの2字漢語 VN+하다」に「訓読みの和語動詞」が対応する類である。尹・車(2013: 11)では(12)のような例を挙げている。

- (12) 간주(看做)하다 看做す  
겸비(兼備)하다 兼ね備える  
견적(見積)하다 見積もる

(7) この裏付けの作業として、現在李箱文学賞10年分の小説と『中央日報』の社説を中心に語彙調査を進めている。



대부(貸付)하다    貸し付ける  
 대절(貸切)하다    貸し切る  
 대출(貸出)하다    貸し出す…

(12)の用例から分かるように、この分類は日本には適用できない類である。『キッチン』(1988)から(13)の「手配する」の用法が見られた。これは韓国語の「수배(手配)하다」からすると【非対応3】に分類されるものである。しかし、日本語からすると「手配」は漢語ではなく、「和語+漢語」の「混種語」であるため、分類の対象外となる。このような類には「合席する」「指図する」「下見する」などがある。

(13) 手配する：수배(手配)하다

#### 5.2.4 【非対応4】

【非対応4】は、「2字漢語+する」に日本語の「和語動詞」に相当する韓国語の「固有語動詞」が対応する類である。今回の調査で、日本語の漢語動詞に対応する固有語動詞の用法は見られなかったが、(14ab)のように、「固有語名詞+하다」の語構成の動詞の用法は見られた。

(14) a. 心配する：걱정하다

b. 自慢する：자만(自慢)하다 (意味のずれ) → 자랑하다

今回の調査で、目についた用法は(15ab)のような類である。対応する漢語動詞があるにも拘わらず、固有語動詞が対応している。それなのに、韓国語の方が2倍以上漢語動詞を用いている、一見矛盾しているような現状にはより綿密な調査・分析が求められる。

(15a)は文脈によって漢語動詞と固有語動詞の交代が自由に行われると思われるが、(15b)は同音異義語の「절망(絶望)하다」だと理解されやすい。普段漢字を用いない韓国の新聞や小説において、「절망(絶望)하다」の頻度が圧倒的に高いからである。

(15) a. 暗記する：암기(暗記)하다 → 외우다 (覚える)

呼吸する：호흡(呼吸)하다 → 숨쉬다 (息を吸う)

残留する：잔류(残留)하다 → 남기다 (残す)

洗濯する：세탁(洗濯)하다 → 빨래하다 (服を洗う)

信用する：신용(信用)하다 → 믿다 (信じる・信頼する)

中断する：중단(中断)하다 → 그만두다 (途中でやめる)

b. 切望する：절망(切望)하다 → 바라다 (望む・願う)

#### 5.2.5 【非対応5】

【非対応5】は、「2字漢語+する」に対応する韓国語の動詞がないため、語義が動詞句または説明になっている類である。『キッチン』(1988)からはこれに当たる用例は見られなかった。

しかし、(16abc)のように「2字漢語+する」に対応する韓国語の漢語動詞があるにも拘わらず、動詞句が対応している用法は見られた。(16a)は両方使われるが、「고소(苦笑)하다」の場合は「고소(苦笑)를 금할 수 없다(苦笑を禁じ得ない)」など、名詞形での用法が普通であると思われる。(16c)の「귀택(歸宅)하다」は辞書には載っているものの、筆者は使ったことも、用法を見たこともない。

(16) a. 往復する：왕복(往復)하다 → 왔다 갔다 하다 (行ったり来たりする)

外出する：외출(外出)하다 → 밖에 나가다 (出かける)

b. 苦笑する：고소(苦笑)하다 → 씩씩히 웃다 (苦笑いをする)

c. 帰宅する：귀택(歸宅)하다 → 집으로 돌아오다 (自宅に戻る)

### 5.2.6 【非対応6】

【非対応6】は、(17a)のように、「2字漢語+する」に韓国語は名詞形のみが対応する類である。(17b)のような漢語動詞が挙げられる。

- (17) a. 始末する⇔시말(×하다) → 정리(整理)하다  
b. 飲食する・影響する・故障する・示談する…

尹亭仁(2014)で、韓国語から見た場合、日韓両言語の漢語動詞の対応に見られる負の転移において、漢語動詞と名詞形の対応は最も割合が高いと指摘された類である。

### 5.2.7 【非対応7】

【非対応7】は、「2字漢語+する」に「2字漢語+하다」ではなく「2字漢語+되다」が対応する類である。『キッチン』(1988)からは(18abc)が見られた。

- (18) a. 高揚する: 고양(高揚)되다  
b. 静止した雰囲気: 정지(静止)되다  
c. 反映して: 반영(反映)되다

(19a)の「矛盾する」の場合、「모순(矛盾)되다」に訳されることが多い。この【非対応7】の代表的な漢語動詞とも言えるものだが、「矛盾であるとは思うが」に訳されている。『키친』(1999)では、(19bcd)のように、名詞形に訳される用例も見られた。

- (19) a. 矛盾している: 모순(矛盾)이라고는 생각하지만  
b. 飽和した: 포화(飽和)상태의 (飽和状態の)  
c. 成人している: 성인(成人)인데요 (成人ですが)  
d. 混乱して: 혼란(混乱)이 커서 (混乱が大きくて→非常に混乱して)

### 5.2.8 【非対応8】

【非対応8】は、日本語は漢語動詞なのに、韓国語は「漢語形容詞」が対応する類である。尹亭仁(2014: 25-26)では(20)のような例を挙げている。

- (20) 一定する 일정(一定)하다  
傑出する 걸출(傑出)하다  
混雑する 혼잡(混雑)하다  
卓越する 탁월(卓越)하다  
伯仲する 백중(伯仲)하다  
優越する 우월(優越)하다…

『キッチン』(1988)で(21abc)のような用法が見られた。(21a)は名詞形で用いられた用例で、(21b)は「漢語+스럽다」の形容詞が対応している用例、(21c)は他の漢語形容詞が対応している用例である。

- (21) a. 伯仲していた 백중(伯仲)이었다  
b. 混乱していた 혼란(混乱)스러웠던  
絶望したけれど 절망(絶望)스러웠지만  
c. 恐縮する 황송(惶悚)할

### 5.3 3字漢語動詞の場合

『キッチン』(1988)に用いられた3字漢語動詞は「急停車する」「複雑化する」の2語のみである。〈表1〉からは2:2で両言語が対応しているように見えるが、『키친』(1999)では別の表現が対応して

いる。その現状を見てみよう（以下、kは韓国語の文、jは日本語の文を表わす。kの中の漢字は筆者が加えた）。

- (22) j. と彼は言い、車は急停車した. (p. 148)  
 k. 라고 말하고 그는 차를 급정거(急停車)시켰다. (p. 128)  
 j. …内面はどんどん複雑化していった. (p. 136)  
 k. …내면(内面)은 점점 복잡(複雑)해졌다. (p. 117)

(22)の「急停車した」の場合、そのまま韓国語に訳すと不自然である。従属節の主語が「彼」になっているため、主節の主語も「彼」になるのが自然だが、日本語の場合、「車」になっている。韓国語は両方とも「彼」を主語にし、主節で「車」を目的語にしている。

「複雑化する」の場合、漢語動詞を用いない訳の方が自然である。韓国語で、状態変化を表わす場合、「複雑になる」に相当する「복잡해지다」の方が違和感のない訳である。「複雑化する」に相当する漢語動詞は社会現象やシステムなど、より堅い内容が主語になることが多い。両言語におけるこのような相違は今後の対照研究に問題点を投げかけるものである。

(23)の2つの用例は『키친』(1999)だけに訳語として登場している3字漢語動詞である。

- (23) j. 彼のしつこさに比例してえりさんも店の人々も冷淡になっていたので、バカにされたと叫んで、ある夜、男は突然彼女をナイフで刺した. (p.73)  
 k. 그의 집요함에 반비례(反比例)하여 에리코 씨나 가게 사람들은 점점 그에 대해 냉담해져 갔다. (p. 61)  
 j. …気が狂いそうな時は手を休めて深く呼吸をした. (p. 92)  
 k. …속이 부글거릴 때에는 잠시 쉬면서 심호흡(深呼吸)을 하였다. (p. 79)

(23)の「比例する」の場合、日本語の文が長いため、2つに分けたことは理解できるが、「比例して」の訳がどうして「反比例して」になっているのかは疑問である<sup>(8)</sup>。「深く呼吸をした」が「심호흡을 하였다」に訳されることは自然だと思われる。

#### 5.4 4字漢語動詞の場合

『키친』(1999)に用いられた4字漢語動詞はなかった(〈表1〉参照)、『キッチン』(1988)には用いられていないが、(24ab)の4つの4字漢語動詞は『키친』(1999)に訳語として登場している。(24a)は両言語に存在しており、日韓両言語間で正の転移に繋がる動詞で、(24b)は「負の転移」に繋がる動詞である。

- (24) a. 망연자실(茫然自失)하다·우왕좌왕(右往左往)하다  
 b. 애지중지(愛之重之)하다·야반도주(夜半逃走)하다  
 用いられている文脈を見てみよう。  
 (25) j. 私は、こんな速くまで来て…、とまっ暗な宿の前で途方にくれてしまった. (p. 149)  
 k. 나는 이렇게 먼 데까지… 거지, 싶어 캄캄한 여관 앞에서 망연자실했다. (p. 128)  
 j. 少しとまどった私の頭に、タイムリーな指令が続いた. (p. 105)  
 k. 잠시 우왕좌왕하는 내 머리 위로 적절한 지령이 이어진다. (p. 91)  
 (26) j. 小さい頃愛していた絵本のように, (p. 91)  
 k. 어릴 적 애지중지하였던 그림책처럼, (p. 77)

(8) 『キッチン』(1988)の韓国語対訳本である『키친』(1999)に訳漏れもあった。訳漏れは作品に対する信頼を落とすことにもなるが、本稿のように対訳小説を分析のテキストとして用いる研究の場合、全体の割合に影響を及ぼすことにもなる。学会発表などを通して誤訳や訳漏れについて注意を促す必要があると思われる。

j. じゃあ, 私は夜逃げね. (p. 60)

k. 그럼, 나는 야반도주하는 거네. (p. 52)

(25)26)を見ても韓国語の方が漢語動詞を多く用いていると言えよう.

## 5.5 5・6字漢語動詞の場合

『キッチン』(1999)の調査で5・6字漢語動詞の用法は見られなかった.

ここまで, 日韓対訳小説の『キッチン』(1988) / 『키친』(1999)に見られる漢語動詞の負の転移について取り上げた. 尹・車(2013)で, 『デイリーコンサイス韓日・日韓辞典』(2009)の見出し語の対応に見られる日韓両言語の2字漢語動詞の負の転移は3割弱であると述べられている. 今回の対訳小説の場合は負の転移の比率が4割弱という結果が出た. さらに, 辞書などのデータから得られる「語彙的対応」に比べ文脈のある「意味・統語的対応」においては3割以上正の転移の比率が下がる, という結果が得られた.

## 6. 終わりに

本稿では, 日韓対訳小説の『キッチン』(1988) / 『키친』(1999)に見られる漢語動詞の用例を中心にその対応関係を取り上げた. 両言語の間に対応する同じ漢語動詞があるにも拘わらず, 文脈によっては他の動詞や表現を用いる現状が浮き彫りになった. 実際の使用状況を見ると, 負の転移の割合が上がることも分かった. これは, 日韓両言語における漢語教育に示唆するところも多く, 課題も具体的に提示するものである.

日本語から見えてきた「負の転移」の様相は尹亭仁(2014)で考察, 提示した様相よりも複雑である. 今回の調査のデータからはまだ見えてきていない部分が多々あるように思われる. 語彙調査の範囲を広げ, より多くのデータに基づいた分類および分析は今後の課題としたい.

### 参考文献

李基文監修(1989/2003)『東亜新国語辞典』第5版, 東亜出版社

岸野英治編・小西友七監修(2011)『THE GRAND CENTURY JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY』第3版, 三省堂

小島義郎・竹林滋・中尾啓介・増田秀夫編(2008)『LIGHTHOUSE JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY』第5版, 研究社

小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』, ひつじ書房

佐竹秀雄・三省堂編修所編(2010)『デイリーコンサイス国語辞典』第5版(中型版), 三省堂

張志剛(2014)『現代日本語の二字漢語動詞の自他』, くろしお出版

松村明編(2005)『大辞林』第2版, 三省堂

尹亭仁(2014)「日韓両言語における漢語動詞の「負の転移」をめぐる一2字漢語動詞を中心に」『神奈川大学言語研究』37, pp. 1-26, 神奈川大学言語研究センター

——(2015)「韓国語の漢語動詞・漢語形容詞の語彙調査—『デイリーコンサイス韓日辞典』(2009, 中型版, 三省堂)の分析を中心に」『神奈川大学人文研究所報』55, pp. 21-30, 神奈川大学人文研究所

——(2016)「日韓両言語における漢語動詞の対応をめぐる(1) —韓国対訳小説を一例として—」『神奈川大学人文研究所報』57, pp. 61-72, 神奈川大学人文研究所

——編(2009)『デイリーコンサイス韓日辞典』, 三省堂

——編(2009)『デイリーコンサイス日韓辞典』, 三省堂

尹亭仁・車香春(2013)「韓国語と日本語の2字漢語動詞に関する一考察—韓日辞典に見られる異同を手がかり

にー』『神奈川大学言語研究』36, pp. 1-24, 神奈川大学言語研究センター

**【小説・童話】**

〈日本語〉

金順姫訳 (2013) 『真昼の視線』, 岩波書店

筒井頼子 (1976) 『はじめてのおつかい』, 福武書店

宮永重良訳 (2015) 『老人と海』, 文芸社

吉本ばなな (1988) 『キッチン』, 福武書店

村上春樹訳 (2010) 『おおきな木』, 福武書店

〈韓国語〉

셸 실버스타인 (2000) 『아낌없이 주는 나무』 (이재명 옮김), 시공주니어

쓰쓰이 요리코 (1991) 『이슬이의 첫 심부름』 (이영준 옮김), 한림출판사

어니스트 헤밍웨이 (1994) 『노인과 바다』 (홍중호 옮김), 하서

요시모토 바나나 (1999) 『키친』 (김난주 옮김), 민음사

이승우 (2009) 『한낮의 시선』, 자음과 모음